

	診察室血圧	家庭血圧
75歳未満の成人*1 脳血管障害患者 (両側頸動脈狭窄や脳主幹動脈閉塞なし) 冠動脈疾患患者 CKD患者(蛋白尿陽性)*2 糖尿病患者 抗血栓薬服用中	<130/80 (mmHg)	<125/75 (mmHg)
75歳以上の高齢者*3 脳血管障害患者 (両側頸動脈狭窄や脳主幹動脈閉塞あり, または未評価) CKD患者(蛋白尿陰性)*2	<140/90 (mmHg)	<135/85 (mmHg)

*1 未治療で診察室血圧130-139/80-89 mmHgの場合は、低・中等リスク患者では生活習慣の修正を開始または強化し、高リスク患者ではおおむね1ヵ月以上の生活習慣修正にて降圧しなければ、降圧薬治療の開始を含めて、最終的に130/80 mmHg未満を目指す。

すでに降圧薬治療中で130-139/80-89 mmHgの場合は、低・中等リスク患者では生活習慣の修正を強化し、高リスク患者では降圧薬治療の強化を含めて、最終的に130/80 mmHg未満を目指す。

*2 随時尿で0.15 g/gCr以上を蛋白尿陽性とする。

*3 併存疾患などによって一般に降圧目標が130/80 mmHgを目指す。

適切な目標血圧値が新しくなりました

さまざまな調査や臨床試験の結果
このような血圧の値にすることで
将来の脳卒中や心筋梗塞
そして血管の動脈硬化で起ってくる
脳血管性認知症を防ぐことが
わかってきたからです

家庭血圧測定をしている人は
起床後の収縮期血圧(上の値)が
重要であることを認識してください